

科目名	教育方法論			ナンバリング	EDU141	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	石川哲夫	担当教員	○石川哲夫				

授業の概要	教育方法論の中心内容である「授業」「教材」「生徒の実態」についての基本的・基礎的な知識の習得と教職への意欲を高めることをねらいとして講義する。 教育方法論の「授業」研究についてコメニウスの教授論から現代にいたる授業論を歴史的に分析したり、教育現場での実際の学習指導を文献や見学を通して状況や課題をは握する。 これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現等)の理解や適切な情報機器の活用法の理解を図る。						
到達目標	1. 様々な授業の分析方法に触れ、その方法と技術を生かした教材研究を進めることができるようになる。 2. 学習指導案の作成と終末の板書事項を工夫した授業を行うことができるようになる。 3. デジタル機器を活用した教材開発や情報通信技術を活用した授業を進めることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	教育方法論は、教育実践の基礎となる知見を提供する学問である。現在、学校教育の価値と教師の仕事が厳しく問われている。本授業は、カリキュラムや授業の学びについての最新の研究成果をわかりやすく提示する。学校改革における論争的な課題についても提起し、受講生の皆さんがこれまでの授業体験に加え、さらに教育の事実の認識を深め、様々な教育問題に対する思索を深める実践的学修である。教職課程科目として重要な領域と意識して学修に取り組むこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身に付け、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身に付け、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。 2. 話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付けている。 3. 子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して教材等を作成・提示することができる。	1. これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(アクティブラーニングなど)を理解している。さらに学級・生徒・教員・教室・教材など授業を構成する基礎的な要件及び学習評価の基礎的な考え方を理解している。 2. 話法・板書など、授業を行う上での基礎的な技術を身に付け、学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。 3. 効果的な情報機器活用のみならず子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
授業への参加態度			○	○	○		40%
小テスト・授業内レポート	○	○					40%
宿題・授業外レポート	○						20%
出席			○	○			出席は加算対象とならず、欠席は減点対象

課題、評価のフィードバック	1. テーマについて主体的に関わり互いに議論を交わし、学習内容について学修を修正し深めていく。 2. 各時限のそれぞれの講義のレジュメを基にリフレクションペーパーに授業考察・疑問・質問項目を書き入れ、次時にフィードバックし、予習・復習に役立てる。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	「教育方法論」の概要及び講義概要の説明	講義概要の説明:「教育方法論」字義の目的と授業設計(教育方法論とは何か) 教育の意義と目的:「授業」の意味ー教材と生徒の実態について説明する、及び21世紀の教育方法について概要を説明する。	
	第2回	授業と学びの世界、変貌する教室、多様な授業様式、授業デザイン	学級、児童生徒、教員、教室、教材等授業を構成する要件について説明する。対話的・協同的な学び合いの実現について説明する。	
	第3回	授業と指導技術(発問・板書のポイント)	授業における導入の在り方、役目、機能について説明する。望ましい発問・板書のポイントやノート指導等について説明する。	
	第4回	よりよい授業をめざすインストラクショナルデザインの概要	「よい授業」とはどのような授業か。授業は子ども、教師、教材、教具学習環境などの要素から成り立っていることを説明する。併せてインストラクショナルデザインの手順や留意点について説明する。	
	第5回	21世紀における防災教育方法(1)	東北地方太平洋地震発生及び原子力災害を体験し、これからの防災教育方法の在り方について協議及び考察を行い、具体的な教育方法について説明する。	
	第6回	21世紀における防災教育方法(2)	地震・津波・火災・原子力災害等複合型防災教育の方法について理解する。教育現場で課題となっている具体的な放射線教育の方法について説明し、特別活動や総合的な学習での取扱いや指導法を理解する。	
	第7回	確かな学力と教材研究	授業を通して学習者に確実に実力をつけて、その期待と信頼に応えるための教材研究の在り方について説明する。	
	第8回	学習指導案の意義と作成時のポイント	授業者の“教えたいこと”を学習者の“学びたいこと”と一致させていく意図的な活動である「授業」をどのように進めていくかを計画表記した学習指導案の概要について説明する。	
	第9回	主体的・対話的で深い学びを実現する教育方法	教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学習者の能動的な学習への参加を取り入れた教授・学習法であるアクティブラーニングの効果について説明する。	
	第10回	「主体的・対話的で深い学び」実現のためのコミュニケーションの技法	アクティブラーニングを効果的に指導するために、「役立つコミュニケーションの技法」について説明する。	
	第11回	「主体的・対話的で深い学び」実現のためのディスカッションの技法	ディスカッションの意義及び運営の仕方、座席レイアウト、ルールの在り方等について説明する。	
	第12回	教育評価の方法(1)	評価の意義及び種類、評価の構成要素(評価目的・評価主体・評価対象・評価基準・評価方法)について概要を説明する。	
	第13回	教育評価の方法(2)	絶対評価と相対評価の用い方、様々な評価方法の利用委について理解し、目的に応じた評価方法を選択できるよう、具体例を通して理解を図る。	
	第14回	授業記録の視聴と分析	授業見学の視点と分析方法に基づいて授業記録の視聴を行い、分析する方法について説明する。	
	第15回	私の考えるよい授業	自分の考えるよい授業方法について、ICTを活用し、プロジェクター発表をする。指導助言後プレゼン資料をブラッシュアップできるようにする。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答とする。討議を必要とする授業テーマについてはグループ協同学修形態体験を取り入れる。		
授業外学習の指示		配付資料を中心に講義の内容を復習する。不明な点は必ず教科所等で確認するか教員に質問すること。 (授業外学習時間: 毎週 90 分)		

教科書	教科書は使用しない。
参考書	授業中に適宜資料を配付する。
参考URLなど	
その他	この授業は、全ての教職課程科目のベースとなる内容である。できるだけ欠席を避けること。